

緑化だより

No.34

平成20年12月、21年1月号



カリン 平成20年11月27日撮影

○20年度緑化写真コンクール

入賞作品決定

○樹のあれこれ

○きのこのない食卓なんて

○みどりの話

○花だより

○研修会・イベント報告・紹介

○お知らせ・ご案内

生き物いっぱい 自然いっぱい

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp

平成20年度緑化写真コンクール 入賞作品決定!!

11月29日(土)に行った緑化研修会『写真コンクールの講評』において、平成20年度緑化写真コンクール入賞作品が決定しました。

今年度は、51名:115作品の応募があり、特選1名、入選3名、佳作5名の9名の方が入賞されました。

入賞した作品、及び応募された方各1点をレストハウスにて『緑化写真コンクール作品展』として、12月28日(日)まで展示いたします。また、入賞された作品は緑化センターオリジナルカレンダーにも掲載する予定です。

引き続き、21年度も実施いたしますので、皆様のご応募お待ちしております。
(敬称略)

賞	作品主題	氏名
特選	秋陽に輝く	佐伯 佳正
入選	満腹	岡島 幸子
	激写	貫里 義春
	小春日和	吉田 喜子

賞	作品主題	氏名
佳作	溪流	梶本 協治
	春の訪れ	植野 寿彦
	秋のヤマガラ	宰 啓二
	遠足	黒瀬 正一
	小春日和のひとコマ	三谷 伸吾

特選

撮影者のコメント

11月中旬、緑化センターの秋は最高。本館角のオオモミジは、秋陽を全身に受け輝いている。このモミジは、芽吹き、新緑、黄葉、裸木と通年で美しい。



『秋陽に輝く』 佐伯 佳正

講評: 写真に力強さがある。色・光・焼きもよく、構図が素晴らしい。幹のバランスもよく、造形も素晴らしい。

入選



『満腹』 岡島 幸子

撮影者のコメント

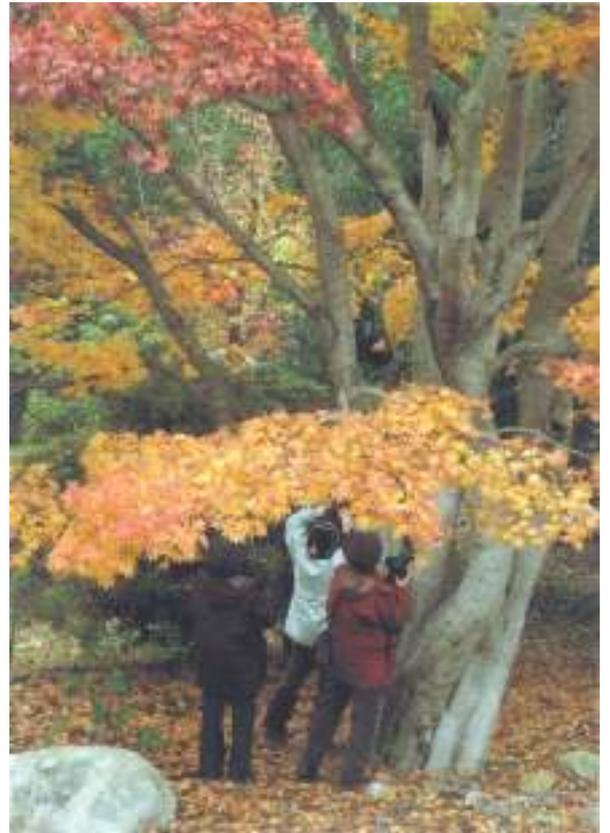
レストハウスのベンチにすわっていると桜の実を食べて満足してしまったのか、眠そうなヒヨドリのほほえましい姿を見て撮りました。

講評: 構図がよく、枝のバランスがよい。赤い実がバランスよくあり、背景が黒く落ちており、ヒヨドリが引き立っている。

撮影者のコメント

大もみじを切り取るカメラマン「どこを撮ろうかな」

講評: 秋の雰囲気がよく出ている。写真の物語性がよく伝わってくる。



『激写』 貫里 義春

撮影者のコメント

秋の一日、東の間の外出デーのひとコマです。

講評: 年配の方が秋の紅葉を楽しんでいる表情がよくでている。秋を待っていたかのような様子。



『小春日和』 吉田 喜子

佳作

撮影者のコメント

緑化センターの小川の撮影しようと散策中、落葉が川の流れてうず巻いているのを発見し、早々に撮った写真です。



『溪流』 梶本 協治

講評: 秋の流れをスローシャッターで上手に撮影している。流れ具合もよく、きちんととらえている。



撮影者のコメント

桜の咲く時期には多くの人が訪れます。桜と人物を入れて撮りました。

講評: 花を楽しみに来た感じがよく出ている。桜の開花を待っていた感じが伝わってくる。もう少し光があればよい。

『春の訪れ』 植野 寿彦

撮影者のコメント

初秋の紅葉を求め園内は毎日の様に児童で賑わっていた。

講評: 小学生が遠足を楽しみにしていた感じがでている。バックの色がよく、構図と色のバランスが素晴らしい。



『遠足』 黒瀬 正一

撮影者のコメント
レストハウスの裏で撮りました

講評:背景の色で秋が感じられ、ヤマガラ
の表情がよく出ている。今にも動き出し
そうな感じが伝わってくる。



『秋のヤマガラ』 幸 啓二



撮影者のコメント
小春日和の日、池のアヒル?と遊んでいる姿が
ほほえましく見えました。

講評:ファミリーが秋の日差しを受けている感
じが良い。ファミリーの暖かさが感じとれる。

『小春日和のひとコマ』 三谷 伸吾

樹のあれこれ

『ナンテン』 メギ科ナンテン属

ナンテンは、皆さんの家にも1本や2本、植えられているのではないのでしょうか。

昔から「難を転ずる」とのことで鬼門の方角などに植栽され縁起のよい植物として扱われています。

葉は幹の先端にだけ集まって付き、独特の形をしています。6月頃花を咲かせますが、その頃は梅雨のシーズンで長雨に会うと花粉がうまく受粉しないで果実の実りが悪くなります。その点、軒下など雨に当たらないところにあると毎年、果実を楽しむことができます。

太くなった幹は床柱として珍重され西は金閣寺の茶室のものが、東は、東京柴又の帝釈天ものが有名で樹齢1500年とされています。また、実は昔から咳止めに使われ「のど飴」の成分として知られています。

センター池南側や管理事務所横の駐車場傍に生えています。



ナンテン:果実



きのこのない食卓なんて

『第9話 制ガン作用について(6) エノキタケ』

欧米では Winter Mushroom と呼ばれている冬の代表的なきのこは、**エノキタケ**です。スーパーマーケットなどで売られている**エノキタケ**は、工場の暗い場所でもやし栽培された茎のひよろ長いものですが、野生の**エノキタケ**は、傘は栽培品より大きく茶色でぬめりがあり、茎もこげ茶色で細かい毛に覆われています。野生と栽培品でこんなに違うきのこは他にありません。



エノキタケ

長野県のエノキタケ栽培家庭の約 17 万人を対象に 15 年間調査したところ、がんの死亡率が一般家庭の死亡率に比べて低いという結果がでました。そして国立がんセンターなどの研究により制がん作用があることがわかったのです。

「**雪の下**」とも呼ばれるエノキタケ、雪が積もってもその下から雪を持ち上げて発生するくらいです。「**かきのきなば**」「**こうぞなば**」という方言名もあり、カキ、コウゾ、エノキなどの広葉樹の枯幹から発生してきます。

みどりの話

『果実とアントシアニン』

多くの樹木は春に花を咲かせた後、受粉・結実し、秋に成熟します。紅葉の彩りに目が向きがちですが、その傍らで彩り鮮やかな果実が熟しています。

この時期でも観察できる鮮やかな果実には、**ムラサキシキブ**・**コムラサキ**・**トキワサンザシ**や**タチバナモドキ**(ピラカンサ)・**サルトリイバラ**・**シナヒイラギ**・**クロガネモチ**などがあります。では、なぜ果実が熟すと色が変わるのでしょうか？一説では、野鳥などの生き物に見つけられやすくして、種を運んでもらい、生育範囲を広げるためという意見があります。人間も果物が熟したかどうかは、色で判断したりもしています。

果実の色が変わる理由は、紫外線から身(実)を守るための**アントシアニン**などの作用によるそうです。**アントシアニン**は、紅葉する時に生成される糖類としてよく知られていますが、なぜ落葉する前に**アントシアニン**が生成されるのか、はっきり分かっていないのが現状です。

アントシアニンは、抗酸化物質ポリフェノールの一種で、疲れ眼の改善に効果があるほか、血液をきれいにしたり、動脈硬化や血栓症を防いだり、虚血性心疾患や脳血管障害などの予防効果があると考えられています。そのため、ヨーロッパでは脳血管障害などの医薬品の成分として利用されています。**ブルーベリー**や**さつまいも**にも含まれており、利用されています。



ナナカマドの果実

花だより

『ヒイラギ』 モクセイ科モクセイ属

『春』はツバキ、『夏』はエノキ、『秋』はヒサギ*とくと、『冬』は・・・、ピンきた方もいるかと思いますが、『冬』はヒイラギで、すべて木偏の漢字になります。

漢字のとおり、11～12月に花を咲かせ、翌年の6～7月に紫黒色に熟します。雌雄異株なので、雌株にしか実はつけません。この時期、赤い実をつけているヒイラ

ギは、クリスマスの飾りに使われるホリーと呼ばれ、シナヒイラギ(別名:ヒイラギモドキ)・セイヨウヒイラギ・アメリカヒイラギになります。これらはモチノキ科であり、ヒイラギとは別種になります。

ヒイラギは邪気の進入を防ぐとされ、庭に植えられたり、2月の節分の時にイワシの頭をさした枝を戸口にさし、魔除けにしたりという風習があります。これは、葉っぱの鋭いとげによって邪気をはらう木とされているほか、葉の刺に鬼が目を突かれて退散したとの伝説(鬼の目突き)からきているとも言われています。現在でもその風習がのこっている地域があります。

株が古くなると、葉のとげがなくなることがあります。人間も年をとると角がとれると言いますが、植物の場合は、動物などに葉を食べられないために、背が低い時はとげを作り、背が高くなるとげがなくなるのではとされています。和名は、葉のトゲに触ると「ひいらぐ(疼く、ヒリヒリ痛むことの意)」に由来しています。

※ヒサギ:アカメガンワやキササゲ、トウキササゲとも言われていますが未詳のようです。



ヒイラギの花

研修会・イベント報告

11月11日(火)『秋の写真教室』

園内の紅葉も見頃となった11日の火曜日に「秋の写真教室」を開催しました。長い間、指導していただきました大藤先生に替り、今回から二科会会友の宗岡先生に指導してもらうことになりました。

研修は、先生が撮影された大雪山や大山など各地の写真や、園内で撮影した写真などを見ながら、撮影のポイント等について説明されました。技術もさる事ながら、暗い内に現地に行き日の出を待つ等、良い写真を撮るには相当の努力も必要だということです。

通常は午前中で研修は終わりとなりますが、先生のご好意により希望者は午後からも園内で撮影の研修を行いました。視写体を廻って構図や背景を決める技術、背景を暗くし、ぼかし深度を深める技術等を教わりましたが、すぐにはうまくはいかないものです。撮影したものをモニターで批評してもらうので、とても参考になったのではと思います。



秋の写真教室

研修会・イベント紹介

○12月6日(土)『クリスマスリース作り』 10:00～12:00 学習室

講師:緑化センター職員 佐々木 輝美

自然の素材を使ってクリスマスリースを作ります。受付は終了しました。

○12月12日(金)『12月の自然探勝』 10:00～12:00 管理事務所前集合

講師:植物研究家 中塚 道則 先生

今回はハナノキコースを歩いて、**タカノツメ**・**コシアブラ**・**ダンコウバイ**などを中心に樹木観察を行います。落葉している時期だからこそ観察しやすい冬芽や幹肌などを観察してみませんか。

○12月21日(日)『注連縄(しめなわ)作り』 10:00～12:00 学習室

講師:小河内わら工芸会 要予約 先着15名(12/1～受付)

近年、注連縄を飾る家は少なくなっていますし、飾っていてもお店で購入しているという方が多いのではないかと思います。自分で作ってみたいけど、材料を集めるのが難しいし、作り方もよく分からないという思いの方も少なくないのでは。

年の瀬が近づいてくると、新年の準備が慌しくなると思いますが、ご自分で作った注連縄を飾って、新年を迎えられては如何でしょうか。

○平成21年1月7日(水)『春の七草を食べよう』 10:00～12:00 学習室

講師:広島県森林インストラクター 尾崎 征生 先生 要予約

「せり なずな ごぎょう はこべら ほとけのざ すずな すずしろ これぞ七草」と古くから歌われ、1月7日の朝に七草粥を食べる習慣は、平安時代から行われているようです。「**七草ばやし**」を歌いながら七草粥を作ってみませんか。

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

◎ 展示会のお知らせ

○緑化写真コンクール作品展

12月5日(金)～12月28日(日) 展示場所:レストハウス

入賞作品と応募された方すべての作品(代表1枚)を展示します。センター内で撮影された作品をゆっくりご覧下さい。

○緑化ポスター原画コンクール入賞作品展

1月8日(木)～2月1日(日) 展示場所:レストハウス

緑化ポスター原画コンクールに入賞した作品の展示を行います。子供たちが緑について思い描いた作品をご覧下さい。

○冬のバードカービング展

2月28日(土)迄 展示場所:レストハウス

木彫りで作られた冬鳥を15種類展示しています。本や図鑑では分かりにくい大きさや形、色合いなどじっくり観察されては如何でしょうか。

◎ 今月号は合併号により、来月の緑化だよりは休みます



オオマシコ